

## 多様な人々が安心して暮らせる「社会的包摂力」あるまちを実現するために

## 配置計画

## ■合理的、効率的な土地利用による明快な街区構成

建物の軸線を東側道路に平行とし、街区の整然とした景観を誘導しつつ、空地スペースを集約して西側、北側において有効利用できるよう配置します。従前の建物と近似したフレームを採用することで地中障害物を避けやすく、合理的な架構とすることを可能にします。

まちなみ沿道の連続性を確保し、安全に歩車分離を図ることで円滑な動線計画の基本とします。

## ■周辺環境への配慮

魅力あるまちづくりのために費やされた貴重な時間や人々の思いを、連歌のように受け継ぎ、寄り添うように、合わせ空地による小さな緑地等のスペースを連続させて面的整備とします。

鉄道沿線沿いにヒューマンスケールな潤いをもたらす、進入する車輛を迎え、導くような「広がり感」をもたらすようボリュームを配して西側における都市交通インフラがもたらす閉塞感を緩和します。

## ■街区の空間的つながりを創り出す

無駄なく配置された建物が生み出された余地を北側オープンスペースとも一体利用することで、街区の空間的な繋がりを創出して不安感を払拭し、開かれた施設を体現します。

## 環境配慮

## ■魅力ある都市環境の創出・環境的、社会的、経済的課題を包括する持続可能な都市緑化

地域および施設環境の向上のため施設全体に点・線・面的な緑を広場・街路から建物、室内へと視覚的、有機的に連続させます。CO2削減とヒートアイランド対策、安らぎや潤いの創出、生物多様性の理解、コミュニティ育成、景観アメニティの向上を図るため、樹木を資産として捉え、維持管理、更新に配慮した整備により、腐朽・倒木、落ち葉や枝の落下、病虫害駆除、樹木の成長への対応などともなう維持管理費の課題を視野に入れた計画とします。

断熱・遮熱性能の向上による快適性と省エネ効果を実現するための、安全で合理的、経済的な保守管理方法の構築、雨水利用による灌水、保水機能（地下水の涵養、緊急時の雑用水、都市洪水抑制）の対応など循環型社会構築の理念に基づく計画とします。



## 配置イメージ図

## 配置上の留意点

敷地周辺には2.5mの壁面後退を確保し、そのうち2mは、歩行者空間として確保し南西部コーナーの歩道部を開放的に広く確保します。

地下埋設物を考慮し、敷地東側に建物、西側に駐車場を配置します。

建物への出入口については、東西南北からの4方向を確保するとともに、北側に想定される多目的なオープンスペースと緑地や植栽などをつながりを持たせます。

車両アクセスは、西側からとして、入口と出口を分けて安全性に配慮します。



あいりん労働福祉センターのセットバックする屋上緑化が、北側からのアプローチのアイキャッチとなる  
【外観イメージ】※今後の詳細設計にて変更する可能性があります。



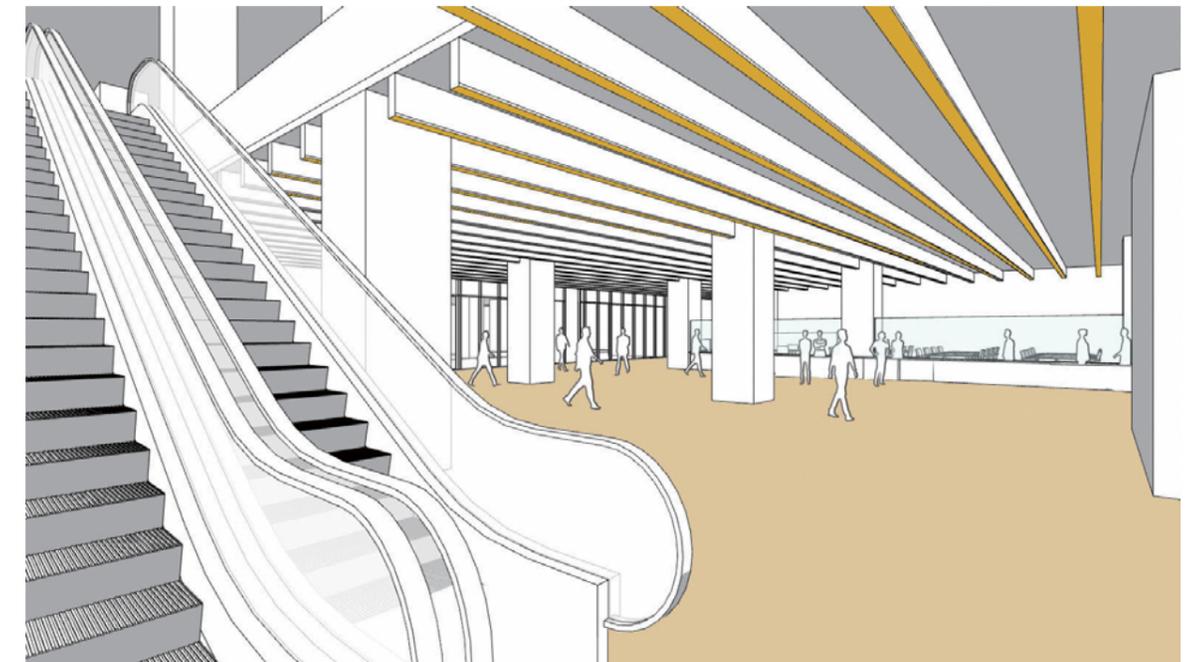
敷地南西の緑地等のオープンスペースが、鉄道沿線沿いに「広がり感」をもたらす  
【外観イメージ】※今後の詳細設計にて変更する可能性があります。

## 施設利用計画

## ■分かりやすいゾーニングと空間構成～親しみやすく開かれた施設

多機能が複合的に構成される施設において、初めての利用者にも分かりやすく、目的の場所に迷うことなくたどり着ける明解な空間構成として、親しみを醸成します。西側の駐車場アプローチを受けるホール部分を外部状況の異なる南北に貫き、各階共通の中心軸に位置づけることで、方向と居場所を分かりやすくし避難動線の安全性を高め、相談カウンターなどと結びます。

四方から来館する利用者をそれぞれ明確な特徴を持った出入口で迎え、南北に駐輪場を配置します。北側の広場と東側道路に面した街区の中央に位置する建物コーナー部に食堂・売店を配して、利用者と近隣住民の利便性に配慮した空間構成とします。



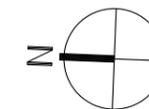
## 東側玄関から1階オープンスペース待合、2階へつながるエスカレーターを見る

1階受付（相談カウンター）は、インテーク窓口として最初の問い合わせ・相談に対応します。カウンター中央部にパーティションを設置してプライバシーに配慮した対応ができるようにします。  
【内観イメージ】※今後の詳細設計にて変更する可能性があります。



## 1階事務室からオープンスペース待合側を見る

早朝の待合利用ピーク時の跡もオープンスペース待合の様子が、事務室から一望できます。  
【内観イメージ】※今後の詳細設計にて変更する可能性があります。



配置図兼 1階平面図 S=1:400

検討用平面図

配置図兼 1階平面図

※本図面は検討図で、確定したものではありません。



